

# 美術科学習指導案

指導者 府中市立上下中学校 糺田 祐美子  
ゲストティチャー 藤田 由美子

- 1 日時 平成 25 年 11 月 18 日 (月)
- 2 学年 第 1 学年 A 組 28 名 (男子 17 名 女子 11 名)
- 3 題材名 「自分」を伝えるデザイン—名刺—
- 4 題材設定の理由

## (1) 題材観

本題材では、中学校学習指導要領美術の第 1 学年「A 表現」(2) (イ)「他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること」、「A 表現」(3) (ア)「形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること」を受けて設定した。本題材のねらいは、「自分」を他者へ伝えるのに適した表現を構想し、「名刺」を使って表現することである。

本題材を設定することで、造形活動の中でおこなわれる生徒交流を通して、他者と共感しあったり、他者との違いを受け入れたり、新たな視点との出会いを通して感じ取る力や思考する力を育みたい。本題材では自然素材を使用するため、思うように作業が進まない面も予想される。そうした条件の中でも工夫しながら根気よく制作に取り組みせたい。そうすることで、出来上がった時の達成感や粘り強く物事に取り組むことの大切さを味わわせるとともに、作品や物に対して敬意を持って接する態度を育てたい。

表現の手段として、色、形、文字を使う。構想する際は、色や形が表す性格や字体の持つ雰囲気をつかえ、アイデアを練り、材料に合った表現方法を工夫して創造的に表現しなければならない。また、「面白さ」「美しさ」などの、構成によってもたらされる特質や感情を理解し、洗練されたデザインを追求することが必要である。特に「美しさ」は、文字の情報の整理、分かりやすさにも通じることを理解させ、受け取る相手の気持ちを考えた表現を心掛けなければならない。制作にあたっては植物で作った染色液を絵の具として用い、より効果的な方法を選択して、創造的な技能を発揮する必要もある。以上のことから、表現意図を明確にした発想や構想の能力、及び表現技能を伸ばすために有効な題材であると考えられる。

○小中の系統は次のように設定されている。

学年	題材名	内容
小学校 3 年	「楽しくつかおう」	使う場所や用途などを考えながら、生活の中で使える小物入れを作る。
	「ゴムの力でトコトコ」	ねじったゴムが元に戻る力を利用し、動きに合う形や色を考え、楽しいおもちゃを作る。
小学校 4 年	「とび出すメッセージ」	とび出す仕組みを基に、伝えたいメッセージが楽しく伝わるカードの表し方を考えて作る。
	「べんりなマイボックス」	段ボールの特徴を知り、生活の中で使える便利な物入れを段ボール箱を使って作る。
小学校 5 年	「楽しく美しく伝えよう」	使う場所の感じ、自分の願いや用途などを考え、形や色、身近な材料や用具の特徴を生かしてプレートを作る。
	「使って楽しき物を」	焼き物の成形と焼成について知り、自分で使ってみたい焼

		き物を目的に合わせた方法で作る。
小学校 6 年	「どんな動きをするのかな」	クランクの仕組みを理解し、それを生かした作品を作る。
	「板から何が」	生活の中で使う物を、作り方を工夫して板材で作る。
中学 1 年	「絵文字がしゃべりだす」	文字のもつ意味と視覚的な形の可能性を探求し、見る人に強い印象を与える文字のデザインをする。
	「文様の飾り小宇宙」	日本をはじめ様々な時代につくられてきた文様の美しさを味わい、その構成要素や作り方の特徴を知る。
中学 2 年	「形と色の挑戦」	言葉や音楽などを手掛かりにしてイメージを広げ、抽象的な表現を工夫してつくりだす。
	「メッセージを伝えるポスター」	決めたテーマにふさわしい構成や配色、言葉などを考えてポスターに表現する。

## (2) 生徒観

事前アンケートの結果は次の通りである。

(人)

①美術の時間は楽しいですか。	いつも思う 7	時々思う 17	あまり思わない 3	全く思わない 1
②ものを作ることは好きですか。	強くそう思う 8	そう思う 19	あまり思わない 1	全く思わない 0
③表現したいことを思い通りに作品にすることができますか。	いつもできる 6	時々できる 17	できない 5	
④良いアイデアを出すために、どんな工夫をしたらよいか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人のアイデアを参考にする。</li> <li>・身近なものや自然をアレンジする。</li> <li>・人に相談する。</li> </ul>			

質問①②より肯定的回答が 80%を超えていることから、もの作りや美術に対して親しみが有意義であることがわかる。③については 80%の生徒が表現したいことを思い通りに作品にできていないと感じることがあることが分かる。このことについて、1 学年でクラスごとに全員で協力した壁画制作を思い起こした。このクラスは、参考資料を模倣する形でアイデアスケッチは意欲的に描いたが、それを構成し配色を決めるなど絵作りの場面では作業が進まず、結局 1 人に任せてしまった。このことから、創造的な発想・構想をして表現する力、また自分の心の中にあるイメージに合った表現を工夫し作品を制作する力に課題があると考えられる。④からは自分一人でテーマを深化させるより、周りからアイデアを得ようとしていることがわかる。

本題材の「名刺づくり」において、主に「レタリング」の技能、「色彩学」の知識が必要となるので、レディネステストで生徒の既知知識の定着状況を調べた。

結果は以下の通りである。

### レタリング

【①ゴシック体と明朝体で「永」を書いて下さい。】(28/人)

	できている	できていない
a、字体の特徴をとらえている	18	10
b、バランスよく描けている	5	23

【②どちらが悲しそうに見えますか。あてはまる記号に○をつけなさい。】

ア、		(25人)	イ、		(3人)
----	--	-------	----	--	------

【③どちらの書体が記事の内容に合っていますか。あてはまる記号に○をつけなさい。】  
28人全員がエの明朝体で書かれた記事を選んだ。

### 色彩学

【④寒色を○で囲みなさい。】(正解 22人、不正解 6人)

【⑤青の補色を◎で囲みなさい。】(正解 21人、不正解 7人)

【⑥どちらの文字がはっきりと見えますか。あてはまる記号に○をつけなさい。】(正解 28人)

【⑦暖かい印象を持つのはどちらですか。あてはまる記号に○をつけなさい。】(28人)

第3レベル：レタリングを書く技能、色彩に関する知識が身についている。書体の雰囲気  
を捉えることができる。 [5人]

第2レベル：色彩に関する知識は身につけているが、技能面に課題が見られる。書体の雰  
囲気を捉えることができる。 [23人]

第1レベル：該当者なし

### (3) 指導観

【事前アンケートの結果からの改善ポイント】

「アイデアを具現化させるための手立てを充実させること」を改善のポイントとする。  
具体的には以下のような工夫をする。

①教師の体験に基づいた名刺を制作し提示することで、生徒の意欲関心を持たせる。

②たくさんの参考作品を鑑賞し、名刺というもののデザインのイメージを持たせる。

③参考作品を「真面目・派手・やさしい」など雰囲気を読み取り、言葉で表に分類し、  
理由を色や形などの要素に注目して考え、配色や形で表される心理表現を知る。さら  
に、作品に使えるようになるために色や形を使った心理表現の練習をする。

④自分を他者にどのように理解してほしいのか表現のポイントを絞ることで、アピール  
ポイントを強調する。

⑤アイデアスケッチをする。図案の大きさを変えたり、結合、増幅させたりしながら繰  
り返し考える。

⑥写真資料などを準備し、参考にさせる。

【レディネステストの結果からの改善ポイント】

### レタリング

実技において、書体の特徴を復習し、ゴシック体と明朝体の区別をつける。見本を提示  
しバランスの良い字、悪い字の意識を持たせる。バランスを取るために有効な、マスを分  
割するための補助線を引くこと。書体の外側の肉付け部分から書き始めるのではなく、文字  
の軸となる骨格から書く指導を改めて行う。またゴシック体や明朝体を基に創作したり、

他の字体に挑戦したりして内容を発展させていく。

字体の雰囲気をつかえることは概ねできているが、なぜそのように感じたかなど理由を書いていた生徒は少なかった。このことから、感じたことを言葉で表現・説明できるよう指導していく。具体的には、各要素から理由を説明できるよう知識や文例を提示する。そして、説明する機会を多く持ち、生徒間で意見交流することで考えが広がったり深まることの喜びを味わう経験を持たせる。

## 色彩学

最初は、基本的な色の復習をする。次に、配色によって印象がなぜ変わるか理屈を学び、最後に表現に生かしていける指導をする。配色の練習問題を通して、感覚的なものを言葉で説明し、相手に伝えられるよう取り組む。

第3レベル：ゴシック体や明朝体を基に創作したり、他の字体に挑戦させる。感じたことや感覚的なものを言葉で考え、相手に理解してもらえよう説明させる。

第2レベル：書体の特徴を復習し、バランスの良い字、悪い字の意識を持たせる。バランスを取るために有効な、マス分割するための補助線を引かせ、文字の軸となる骨格から書く指導を改めて行う。感じたことや感覚的なものを言葉で説明させる。

また今回はゲストティチャーとして上下町在住の藤田由美子さんを招き、指導を仰ぐ。藤田さんは草木染に造詣が深く、また様々な造形活動に関心をお持ちで積極的に活動をされている。長年の経験から、イメージを具体化させるためのアドバイスをしていただく。また本題材では、草木の染色液で彩色を行う。自然の染色液は、ポスターカラーなどとは違い独特の風合いを持つものである。生徒も初めて扱う材料であることから、作品で使用する前に材料や道具に慣れさせる必要があると考える。したがって、事前に藤田さんに実演を交えながら染色液の使い方を教えて頂き、作品に思い通りに生かせるように体験をさせる。作品に入る前に材料に慣れることで、実技面での不安を取り除くことが出来、本番での作業が円滑に進むだけでなく、構想を考え具現化する上で、より具体的なイメージを持たせることができると考える。また筆だと「思うように塗れない」という生徒もいることから、ペンの要領で使える爪楊枝や葦ペンなどの道具を準備し、出来るだけ苦手意識を取り払い、構想を実現できるよう支援したい。

### (4) 言語活動の充実について

#### ア つけたい力

- ・受け取る相手の気持ちを考えて、構想を練る力。
- ・色や形を使い、構想を具現化する力。(本時)

#### イ つけたい力を実現するための言語活動

- ・参考作品を雰囲気別で言葉表に分類し、感覚やイメージを言葉で明確にする。
- ・アイデアスケッチをする。
- ・色や形の感情効果をとらえ、自分の表したい意図に沿って表現する。(本時)

#### ウ 言語活動の充実を図るための指導の工夫

- ・分類の理由を、形や色などに注目して班で話し合う。
- ・一つのアイデアを大きく描いたり、結合させたり、増やすなどしてアイデアを広げる指導をする。
- ・色や形の感情表現をおさえ、様々な材料で表現することで自分に適したものを見つけさせる。

## 5 題材の目標

- (1) 他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
- (2) 形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現すること。

## 6 題材の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
①伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考えて表現することに関心をもち、主体的に構想を練ろうとしている。	①他者の立場に立って、伝えたい内容について、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練っている。	①形や色彩などの表し方を身に付け、表したいイメージをもちながら意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現している。	①伝える、使うなどの目的や機能と形や色彩などの美しさの調和、作品全体のイメージ、作品に込められた作者の思いや願いなどを感じ取り、自分の思いや考えをも味わっている。

## 7 指導と評価の計画（全7時間）（本時6/7）

次	学習内容 (時数)	評価					既習事項として身につけておくべき力	上級学年との関連
		関	発	創	鑑	評価規準		
1	<事前にレディネステストを実施する> 【名刺を理解する】(1) ・名刺の役割 ・参考作品鑑賞 【草木染を理解する】 ・技法、特徴 ・参考作品鑑賞	○			○	ア① エ①	・ワークシート ・発表	
2	【デザインする上で配慮するポイントを押さえる】(1) ★言語活動 ・参考作品を雰囲気別で言葉表に分類し、感覚やイメージを言葉で明確にする。 ・自分はどのようなことを名刺で表したいのか言葉で考えをまとめる。 【草木染を体験する】(藤田さん)	○				ア①	・ワークシート ・発表	
3	【アイデアを練る】(1) ・3つのアイデアを考える。 ★言語活動 ・アイデアスケッチ ・アイデアを友人同士で批評し合い、表現したい意図に合っているか検討する。 ・アイデアを絞って作品化するものを1つ決定する。	○	◎			ア① イ①	・アイデアスケッチ	・名刺の役割 ・レタリング ・色の感情表 ・「形と色の挑戦」 ・「メッセージを伝え

4	【制作】A (材料：画用紙、色鉛筆) (1) ・下書き ・色塗り ・Bの下書き			○		ウ①	・作品	現 ・形の印 象	るポス ター」
5	【制作】B (材料：画用紙、ポスター カラー) (1) ・色塗り ・Cの下書き			○		ウ①	・作品		
6	【制作】C (材料：和紙、草木染) (1) ・学習した技能を生かして制作する。 ★言語活動 ・色や形の感情効果をとらえ、自分 の表したい意図に沿って表現する。  【渡す相手を決める】 ★言語活動 ・作品A・B・Cをそれぞれ誰に渡 すか、作品の特徴から理由を説明す る。(本時)			○	○	ウ① エ①	・作品 ・ワーク シート ・発表		
7	【鑑賞・まとめ】(1) ・友達の作品を鑑賞し、お互いの名 刺から伝わってくる雰囲気を言葉に する。				○	エ①	・ワーク シート ・発表		

## 8 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・伝える相手の気持ちを考え、自分らしさを形や色彩などの効果を生かし表現できる。
- ・作った名刺を誰に渡すか定め、その理由を説明することができる。

### (2) 準備物

- ・名刺の作品例 ワークシート 名刺大和紙 テレビ パソコン 染色液 筆ペン  
作品A・B ワークシート ファイル 筆記用具 筆 雑巾

### (3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準(評価方法)
導 入	1 前回の振り返り (1) 名刺の役割 (2) 分類表の確認 2 本時の流れの説明	○前回のワークシートを参照する。 ○名刺の役割、デザインの効果など生徒 発表させる。 ○2つの活動があることを頭に置き、作 業を効率良く行うよう意識させる。	
展 開	3 本時のめあてを掲示	○活動目標の明確に持たせる。	
	【制作】C		
	4 草木染について 5 制作	ゲストティチャー： 草木染の性質、制作ポイントを伝える。	

①名刺で伝えたいことを、文字や形や色を工夫してあらわそう。

②作品のデザインから渡す相手を想定し、そのデザインを選んだ理由を説明しよう。

	<p>【渡す相手を決める】</p>	<p>○作品A・Bを机の上に置き、材料によって雰囲気が変わることに気付かせる。</p> <div data-bbox="603 376 1066 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※C基準の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思い通りの表現ができるように綿棒や爪楊枝など筆以外の道具を使用させる。</li> <li>・参考作品を側において、示す。</li> </ul> </div> <p>○個人指導：染料をどう使えば効果的かなど、藤田さんに相談し指導を受ける。</p> <div data-bbox="719 683 1241 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゲストティチャー：例をあげる。</p> </div> <p>○ワークシート配布</p> <p>○作品A・B・Cから材料によって変わる雰囲気を感じ取り、渡す相手を想定させる。</p> <p>○想定理由を既習事項から説明できるように指導する。</p>	<p>ウ①（作品）</p> <p>エ①（ワークシート）</p>
<p>ま と め</p>	<p>6 本時のまとめ</p> <p>7 振り返り</p> <p>8 次回の予告</p>	<p>○ワークシートに本時学習したことを記録し、自己反省と次回の課題を明らかにする。</p> <div data-bbox="858 1064 1369 1124" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゲストティチャー：まとめを言う。</p> </div>	

9 板書計画

①名刺で伝えたいことを、文字や形や色を工夫してあらわそう。

②作品のデザインから渡す相手を想定し、そのデザインを選んだ理由を説明しよう。

藤田さん紹介

制作工程 1、草木染で色をつける。

2、乾いたら文字をペンで書き入れる。

参考作品A	参考作品B	参考作品C

名刺分類表

- ・テレビ画面で参考作品を常に提示する